

[2] 北方海域の水産資源動態に対応した生産性向上技術に関する研究

【達成目標と研究内容】

本研究は沖合域における構造物への生物蛸集効果を明らかにすることにより、人工構造物によって水産資源を維持・増産するための、総合的な評価手法の確立を目指すものである。

➤ 達成目標①：沖合海洋構造物の生物蛸集および周辺環境を踏まえた餌料培養効果の把握

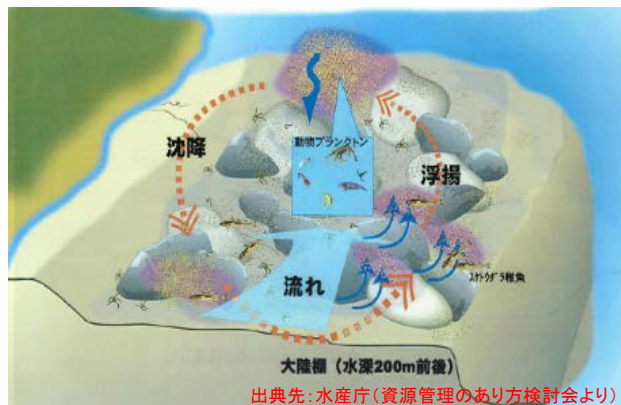
- ・蛸集する生物量や物理環境、水質・底質について現地調査を行い、人工構造物の有無による比較検証で、生物生息の環境特性について明らかにする。

➤ 達成目標②：沖合域に設置した実構造物による実証実験結果を活用した餌料培養メカニズムの解明

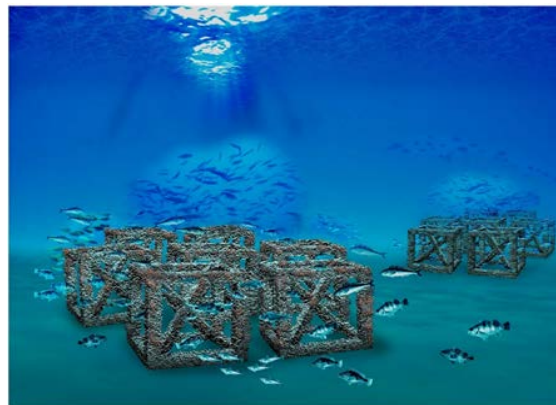
- ・実構造物を用いた実証実験により、底層の動物プランクトンの蛸集状況や底生生物の付着状況等、現地実測データを取得・分析し生物と人工構造物との関係（生物蛸集機構等）を解明する。（図-4）
- ・解明された機構を基にモデル（物理場、生態系等）を開発し、構造物を設置した場合の餌料培養効果の予測及び評価手法の構築を行う。

➤ 達成目標③：大規模漁場の整備効果に関する総合的な評価手法の構築および整備手法の開発

- ・現プロジェクト研究で行った「湧昇マウンド礁」「保護育成礁」に関する手法に「餌料培養礁」による生産性向上技術を組み合わせた成果の取りまとめを行い、大規模漁場の整備効果に関する総合的な評価手法を確立する。（図-5）



沖合域での餌料培養機構の概念



餌料培養礁(イメージ図)

